

本書は、三井化学グループESGレポート2020及び関連するWEBサイトに示されるサステナビリティ活動に対するSGSジャパン株式会社の保証報告書である。

保証の特質及び範囲

SGSジャパン株式会社は、三井化学グループ（以下、組織）からの依頼に基づき、ESGレポート2020及び関連するWEBサイト（以下、報告書）の第三者保証業務を行った。保証の範囲は、SGSサステナビリティ報告書保証手続きに則り、当報告書のステークホルダーマネジメントプロセス、産業廃棄物埋立処分量、VOC排出量、NOx排出量、SOx排出量、取水量（上水道水、地下水、工業用水、海水）、COD及びBOD排出量、障害者雇用率、女性管理職（課長級以上）比率、定期採用の女性比率、重視する労働災害の度数率及び報告プロセスをサポートするマネジメントシステムである。各項目の対象範囲については別紙参照。

組織の報告書に示されている情報やその掲載は、組織の取締役会または管理機関、及び経営層の責任に帰するものである。SGSジャパン株式会社は、当報告書に含まれる内容の準備には関与していない。

我々の責任は、保証の範囲内における文章、データ及び声明について意見を表明し、組織のすべてのステークホルダーに意見を供することである。

SGSグループは、現在最も優れた指針を提供しているGRIサステナビリティ報告ガイドラインやAA1000保証基準に基づき、サステナビリティの保証にかかわる基準を確立している。保証レベルの基準には、保証機関のためのガイダンス及びAA1000シリーズの基準を含んでいる。

本保証業務においては、我々の基準を採用し、中程度の保証レベルによって、以下の業務を行った：

- 内容の正確性についての評価；
- AA1000アカウンタビリティ原則(2018)に対する報告書内容及びサポートするマネジメントシステムのAA1000アシュアランススタンダード(2008)及び2018追加要求におけるタイプ2の評価；

保証業務は、事前調査、関連従業員及びマネジメントへのインタビュー、組織本社での岩国大竹工場及び名古屋工場の証憑突合及びリモートでのサイトツアー及びインタビュー、証拠書類等との照合及び確認、資料及び記録のレビュー、分析的手続などの組み合わせによって実施した。

財務データについては、会計士によって直接、独立した監査が行われており、本保証の過程においては、詳細な調査を行っていない。

独立性と力量の声明

SGSグループは、検査、試験、検証業務における世界的リーダーであり、140を超える国々で、品質、環境、社会及び倫理にかかわるマネジメントシステム認証業務や、トレーニングサービスを実施し、環境、社会及びサステナビリティ報告書保証業務を提供している。SGSジャパン株式会社は、組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する資格に基づき構成されており、ISO9001、ISO14001、ISO45001、温室効果ガス排出量の主任審査員を含んでいる。

保証意見

前述の要領に基づいて実施した保証手続きの範囲において、当報告書に含まれている情報やデータは、2019年4月1日から2020年3月31日における組織のサステナビリティ活動を公正かつ相応に表現したものでないと認められる重要な事項は発見されなかった。

当報告書は、組織のステークホルダーにとって有効なものとなっている。
我々は、組織が報告内容に対して適切な保証レベルを設定していると判断する。

AA1000アカウンタビリティ原則 (2018) 結論, 発見事項及び推奨事項

包摂性

組織は、広く社会に貢献することを企業グループ理念とし、社会貢献5項目を定めている。このグループ理念を実現するために、マルチステークホルダーを考慮し、事業活動に関連した重要課題を特定している。また、マルチステークホルダーに対し、事業に組み込まれた参加のプロセスを確立している。そのプロセスは、継続的で実効的なものである。以上により、包括性の原則に対応していることを、本検証にて確認した。

重要性

重要課題は、国際的なガイドラインの要請事項、ステークホルダーエンゲージメントを考慮して特定されている。特定された課題は外部有識者及びESG推進委員会によって審議され、妥当性を確認している。また、ESG推進委員会にて、重要課題の特定プロセスも定期的にレビューを実施している。特定された課題は、長期経営計画の環境・社会軸目標に反映されている。

以上により、重要な課題が特定されていることを、本検証にて確認した。

対応性

重要課題に対する取り組みは、当報告書にて開示することで、ステークホルダーに報告されている。また、これらの課題とSDGsとの関連性も当報告書にて開示している。

特定された課題に対する目標及び実績についても、当報告書にて開示している。

以上により、課題に対応していることを、本検証にて確認した。

影響

重要課題に関連するパフォーマンス結果は報告書において詳細事例を含め報告されている。この報告には、安全衛生に関する業界での位置づけ及び障害者雇用率法定順守状況も含まれている。検証対象として特定したサステナビリティパフォーマンスの内、女性比率、取水量、産廃埋立処分量、大気汚染物質量、水質汚濁物質量については、経年でのデータ推移は開示されているが、環境若しくは社会への影響について開示には至っていないため、今後の開示について改善する余地がある。

以上により、影響の原則に対応していることを、本検証にて確認した。

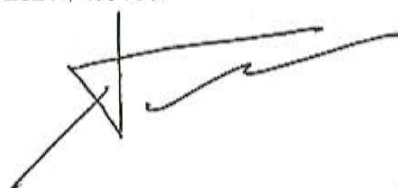
SGSジャパン株式会社

認証ビジネス・ソリューションサービス

事業部長

上級経営管理者

2021年1月13日



竹内 裕二



AA1000

Licensed Assurance Provider
000-8

対象範囲の詳細

保証対象	検証範囲及び対象時期	検証数値
1 産業廃棄物埋立処分量 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 0.4 千t ② 0.2 千t ③ 0.2 千t ④ 0.8 千t
2 VOC排出量 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 1,579 t ② 405 t ③ 58 t ④ 2,042 t
3 NOx排出量 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 2,311 t ② 108 t ③ 254 t ④ 2,673 t
4 SOx排出量 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 368 t ② 42 t ③ 62 t ④ 472 t
5 取水量計（上水道水、地下水、工業用水、海水） ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 492.7 百万m ³ ② 19.9 百万m ³ ③ 3.4 百万m ³ ④ 516.1 百万m ³
5-1 上水道水 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 0.8 百万m ³ ② 0.3 百万m ³ ③ 0.4 百万m ³ ④ 1.5 百万m ³
5-2 地下水 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 0.6 百万m ³ ② 1.2 百万m ³ ③ 0.0 百万m ³ ④ 1.8 百万m ³
5-3 工業用水 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 81.9 百万m ³ ② 9.3 百万m ³ ③ 3.0 百万m ³ ④ 94.1 百万m ³
5-4 海水 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 409.5 百万m ³ ② 9.2 百万m ³ ③ 0.0 百万m ³ ④ 418.7 百万m ³
6 COD+BOD排出量 ※生産及び研究拠点	① 組織単体7サイト ② 国内関係会社23サイト ③ 海外関係会社21サイト ④ グローバル51サイト	① 884 t ② 68 t ③ 1,676 t ④ 2,628 t
7 障害者雇用率	組織単体 ※2020年3月1日時点の1年間集計	2.3 %
8 女性管理職（課長級以上）比率	組織単体 ※2020年3月31日時点	3.0 %
9 定期採用の女性比率	組織単体 ※2019年4月1日時点	事務系総合職：52 % 技術系総合職：16 % 一般職：11.4 %
10 重視する労働災害の度数率	グローバル(組織の定義による：組織単体、国内関係会社、国内工事協力会社、海外関係会社)	0.31